令和３年度２学期始業式　式辞

令和３年９月１日

皆さんおはようございます。

今、緊急事態宣言発令という大変な状況の中ではありますが、予定どおり、こうして皆さんとともに２学期を迎えられることを、うれしく思います。ただ、長い休みの後は、程度の差こそあれ、誰もがしばらくはストレスを感じるものです。大きいストレスなら、決して１人で抱え込まず、先生方や友だちを頼りましょう。そして、リズムを取り戻していくようにしましょう。

今日は三つの話をします。

まず、この夏休み中の皆さんの頑張りを紹介します。本校生は、勉強、部活動、学校行事等様々なことに一生懸命取り組みました。

勉強では、暑い中、補習を受けるために登校した人。よく頑張りました。自宅でも、自ら設定した目標に向けて頑張った人は多いと思います。努力は必ず報われる、という話は以前したとおりです。

次に部活動等での活躍です。

山岳部は、全国高校総体で見事５位に入賞しました。かるた部では、全国高校選手権大会で、１年の中島莉衣瑠さんが、第４位に入賞しました。ボート部は、国民体育大会近畿ブロック大会で、男子シングルスカルで３年の宮本卓君が、女子ダブルスカルで２年の近藤優羽さんと島田優子さんがともに５位に入りました。合唱部は、兵庫県合唱コンクールにおいて２１年ぶりに男女混声で出場し、金賞を受賞し関西コンクール出場が決定。吹奏楽部は、兵庫県吹奏楽コンクールの県大会において銀賞を受賞しました。水泳部の兵庫高校との夏の定期戦は、男子勝利、女子敗戦、総合で敗戦となりましたが熱戦だったと聞いています。陸上競技部は、９０年以上続く伝統の神戸・兵庫・長田対抗陸上競技大会に出場、勝利は譲りましたが、よく健闘しました。

次に、個人等で参加したコンクール等についてです。日本生物学オリンピック２０２１では、１年の河原大智君が、３千人を超える参加者のうちの上位８０人に入り、本戦出場を決めています。県高校独唱・独奏コンテストのピアノ部門で、３年の兵頭柚樹さんが銀賞を受賞。兵頭さんは県学生ピアノコンクールの予選でも金賞を受賞し本戦出場が決まっています。また、毎年参加している関西６高校（彦根東、膳所、堀川、北野、奈良、神戸）での即興型英語ディベート交流大会に、希望者で編成した２チームが参加し、本校Ａチームが

準優勝に輝き、２年の廣瀬有希さんがエキシビションディベータ賞に、２年の中西咲乃さんと原彩桜さんがベストディベータ賞に輝きました。

学校行事である総合理学科説明会やオープンハイスクールでは、自治会、総合理学科生、関係の部活動や委員会の生徒が、工夫を凝らして本校の魅力をアピールしてくれました。自治会はまた、コロナ禍というとても厳しい状況の中で、どうやって安全に体育大会や音楽会が実施できるとかと、夏休みの始めから議論を重ね、すでに２度のフリートーキングを実施しています。

皆さんは、こうしたことを通して、着実に成長しています。同じ神高生の多彩な活動、活躍を共有し、互いに刺激を受けながら更に頑張っていってくれることを期待し、紹介しました。それにしても、この多様な活躍ぶり。「多様性」を英語では「ダイバーシティ」と言います。神高生としてのアイデンティティを共有し、多様性即ちダイバーシティを認め合い、その力を結集することが、１つの集団が発展していくためにとても大切なことだと思います。

２つ目は、コロナ感染対策についてです。

デルタ株の猛威は想像を超えています。いつまた分散登校等の指示が出てもおかしくない状況です。また、この度、国から学級閉鎖や学年閉鎖の規準が示されましたが、そのような事態になれば、一生懸命準備している各種行事の開催も不可能になってしまいます。この後の教頭先生の説明や担任の先生方の諸注意を、全員が自分のこととしてとらえ、決して学校で感染を広げない、自分が感染の媒介にならないという決意に基づく行動をとるよう、皆さんに強く要請します。

３つめは、本校卒業生についての話です。

僕は、この夏休みを利用して、本校の地元の中学校等２３校を訪問し、中学校の校長先生とお話をさせていただきました。中学校の先生方は、いつまでも卒業生の皆さんのことを気にとめてくださっています。ありがたいことですね。

さて、ある校長先生が「神戸高校と言えば、あの人ですね」と仰いました。皆さんなら誰を上げますか。その校長先生は、その後「神戸高校と言えば白洲次郎ですね」と仰いました。

白洲次郎は大正３年に神戸一中に入学し、卒業後ケンブリッジ大学に留学しています。太平洋戦争敗戦後には、吉田茂の懐刀として活躍し、占領軍ＧＨＱから「従順ならざる、ただ一人の日本人」と言わしめた人です。彼の存在がなければ、戦後の日本はアメリカの操り人形になっていたかもしれない

と言う人もいます。一方で、イギリス紳士のあり方、英国紳士道とでも言うべきものを身につけた彼は、見かけもとてもダンディーで、「日本で初めてジーンズをはいた男」とも言われています。多くの名言を残していますが、一番有名なのは、おそらくこれでしょう。

「プリンシプルを持って生きていれば、人生に迷うことはない。」これについて白洲は「プリンシプルはどう訳したらよいか知らない。原則とでも言うのか。」と言っています。僕は、このプリンシプルという言葉を、どんなことがあっても揺らがない自分の筋、信念のことだと解釈しました。揺らぐことのない確固たる生き様を示した、こんなかっこいい先輩がいることを覚えていても損はありません。

「プリンシプルを持って生きていれば、人生に迷うことはない。」プリンシプルという背骨が一本通ったしゃんとした姿勢の生き方をしていきたいですね。

本日の話は以上です。２学期も、皆さんにとって充実した学期になることを願って、式辞とします。